JAみなみ魚沼営農情報誌
あぜみち
No.12
令和５年１月13日
南魚沼市・湯沢町
NOSAI新潟県・JAみなみ魚沼

～令和４年産米作柄振り返り～

１．コシヒカリの生育状況

（1）土づくり

令和４年産米の土づくり（主要ケイ酸資材10品目、有機質肥料４品目の供給実績の合計）は、前年比106.5%、前々年比103.3%と継続的にケイ酸、有機質資材が施用されました。

（2）育苗～移植

４月上旬～５月上旬にかけて寒暖差が大きく褐条病やムレ苗等の育苗障害が散見されましたが、移植時期は天候に恵まれて順調に作業が進み、平年並みの移植盛期となりました。

（3）中干し

６月上旬の低温・低日照により初期生育は緩慢となり、㎡当たり茎数は指標値比84.3%と少なく推移したことから、移植後25日に生育量を確認し圃場に応じた中干しが実施されました。また、６月中旬以降は一転して気温の高い日が続き大ひびの入る圃場も散見されましたが、最高分げつ期には指標値比104.1%と茎数が確保されました。

（4）穂肥～出穂期

６月中旬～７月初旬にかけての高温・高日照により急激に退色が進んだため、積極的な穂肥施用が必要な圃場が多く見られました。１回目時期の穂肥は多くの圃場で施用され、２回目時期の穂肥は確実な施用がされました。また、基肥一発肥料の圃場でも生育に応じて穂肥が施用され、出穂期には多くの圃場で葉色の目標値が確保されました。

（5）登熟～収穫

８月中～下旬から、低温・低日照と台風11号（９月５日～７日）の影響により早期に倒伏した圃場では登熟が緩慢となりました。また収穫期前半の品質は良好でしたが、台風14号（9月20日）によるフェーンを境に定期的な降雨も重なって、収穫期後半は刈遅れによる品質低下を招きました。

図1　ケイ酸資材・有機質肥料供給実績

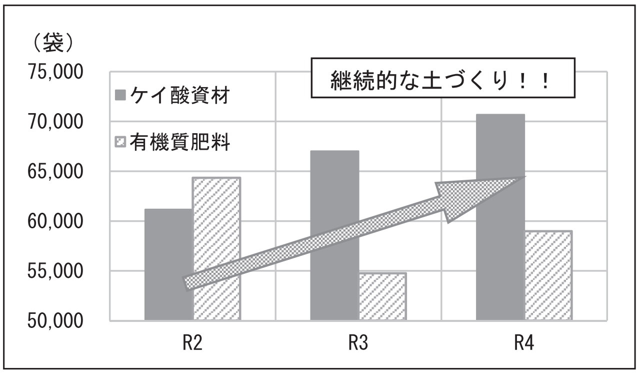


図2　茎数（㎡当り）の推移

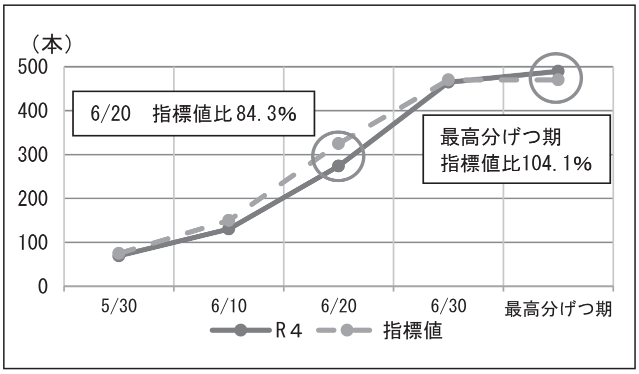


図3　葉色の推移

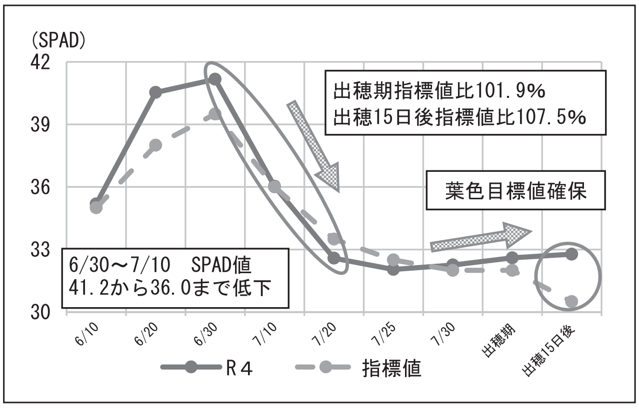
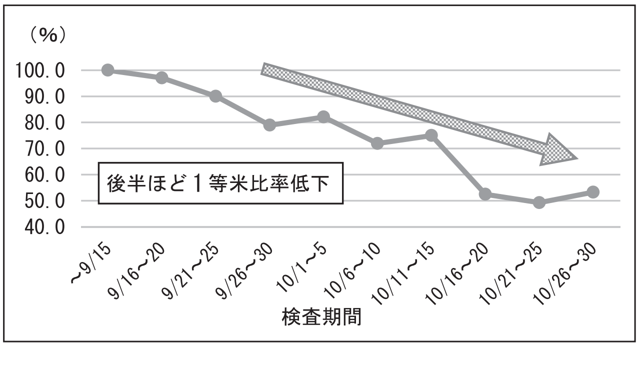


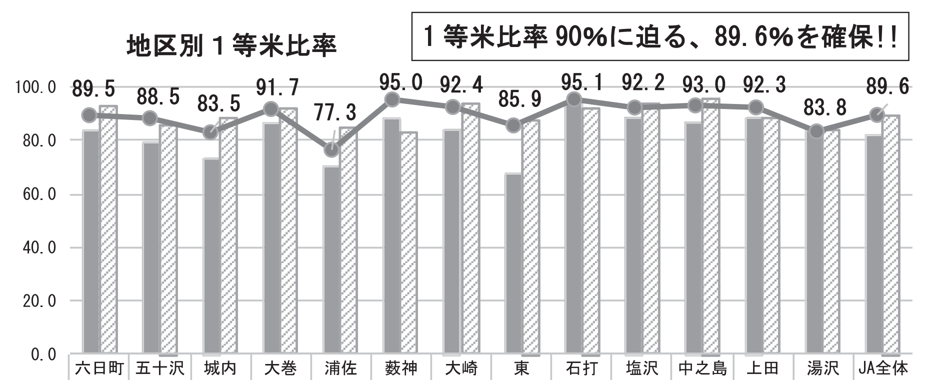
図4　R4検査期間ごとの1等米比率



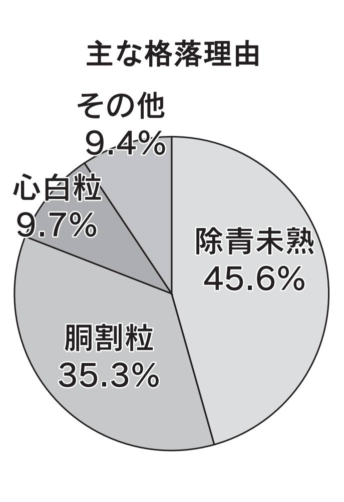
２．農産物検査結果（10月末時点）

（１）コシヒカリ１等米比率と格落ち理由

　継続的な土づくりや適期中干し、生育診断に基づいた穂肥施用等、基本技術の励行により、コシヒカリの1等米比率は、82.1%（紙袋・フレコン）、カントリーを含めると89.6%となりました。



	六日町	五十沢	城内	大巻	浦佐	薮神	大崎	東	石打	塩沢	中之島	上田	湯沢	JA全体
R4	83.5	79.4	73.6	86.4	70.1	88.2	84.1	67.8	94.3	88.6	86.8	88.7	83.6	82.1
R3	92.5	85.9	87.9	91.8	84.7	82.8	93.6	87.7	92.3	93.4	95.7	88.2	83.6	89.7



（２）主な格落ちの発生要因

除青未熟粒の発生

　８月中〜下旬の低温・低日照と９月上旬の台風による早期倒伏や天候不順による刈遅れが除青未熟粒の発生を助長しました。

胴割粒の発生

　９月20日の台風14号通過後のフェーンにより、籾の急激な水分変化によって立毛での胴割粒発生が助長されました。胴割粒発生の危険水準を超える乾燥状態が観測されていたこともあり、立毛での胴割れが発生しやすい環境でした。

３．収量低下に繋がった要因

（１）穂数の減少

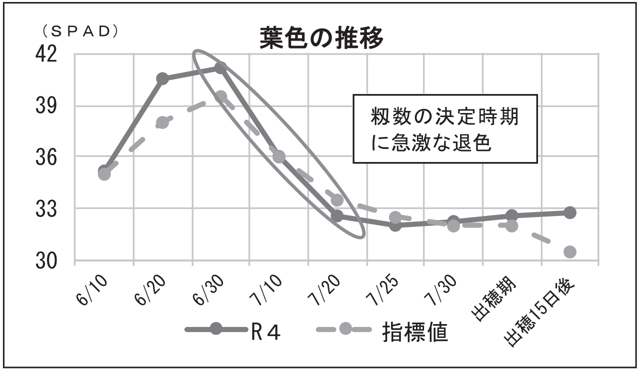
　６月上旬からの低温、低日照により平年と比べて初期の分げつ発生が少なく、弱勢になりやすい後発の分げつにより茎数を確保した圃場では、生育後期に枯れ上がり等で穂数の減少に繋がったと考えられます。

【JA生育調査より（JA平均は18圃場の平均）】

	穂数（本/㎡）	１穂籾数（粒/㎡）	籾数（粒/㎡）
JA平均	365.6	76.9	27445.1
平年値	384.7	79.3	30233.5
平年比	95.0%	97.0%	90.8%

（２）１穂籾数の減少

　１穂当り籾数は幼穂形成期頃の稲体の栄養状態により決定します。昨年は、中干し時期以降、長期的な無降雨と高温により大ひびの入る圃場が多く見られ、６月30日から7月10日の葉色差はSPAD値で−5.2ポイントと急激に低下し、７月20日には指標値を下回りました。退色が進んだ状態で籾数の決定時期を迎えたことが籾数の減少に繋がったと考えられます。



令和４年産米の作況指数は、全国101、新潟県99、中越100となっていますが、当JA管内では、生育の圃場間差が大きく、収量にも影響しました。

令和５年産米重点対策については、次年度あぜみち３月号にてご案内します！

園芸技術情報

落葉果樹の発芽前散布で、越冬病害虫の防除をしましょう。

○石灰硫黄合剤

作物	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用方法	使用量
落葉果樹	カイガラムシ類、ハダニ類 越冬病害虫	7～10倍	発芽前	散布	おおよそ 10～20ℓ/木1本
もも	縮葉病、胴枯病、黒星病	7倍			
うめ	縮葉病	8倍			
なし	黒星病	7倍			
くり	芽枯病	20～40倍			
すもも あんず	ふくろみ病	140倍	－		
かき	うどんこ病、黒星病	100倍	－		
果樹類	ハダニ類、サビダニ類	20～40倍	冬季		
		80～200倍	夏季		

※匂いが強いので散布の際には周囲の環境に配慮をお願いします。
※消毒機械や衣類は大変汚れますので注意してください。

○マシン油乳剤 95（キング 95 マシン）

作物	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用方法
かんきつ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ・ハダニ類及びその越冬卵	30～45倍	冬季	散布
		100～200倍	夏季	
落葉果樹 （なし、りんご、かき、もも）	カイガラムシ・サビダニ ハダニ類及びその越冬卵	16～24倍	－	
落葉果樹、桑	カイガラムシ類	12～14倍	－	
もも	アブラムシ類	25倍	発芽前	

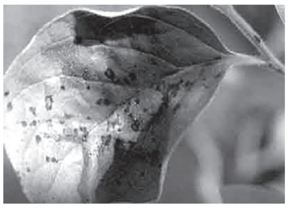
※魚毒性があります。河川への流出には十分ご注意ください。
※発芽後に使用すると薬害の恐れがありますので、十分にご注意ください。
※「石灰硫黄合剤」と「マシン油乳剤95」の混用、併用はできません。

○病害虫写真 <農文協「ルーラル図書館」より引用>

・縮葉病（もも、うめ）

・ふくろみ病（すもも）

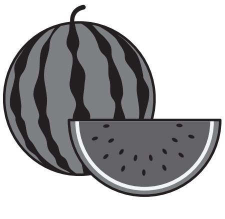
・黒星病（かき）



・芽枯病（くり）

西瓜栽培 新規生産者募集!!

八色西瓜生産組合では、西瓜栽培に共に取り組む**新規生産者を大募集**しています。
園芸栽培初心者でも安心の**講習会やフォロー体制も充実！**
塩沢・湯沢地域でも栽培に取り組む生産者が増えています。
興味のある方は下記までお問い合わせください。



JAみなみ魚沼 園芸畜産課　TEL：025-782-1171（塩沢）・TEL：025-777-3180（大和）

ＪＡからのお知らせ

令和5年10月から始まる「インボイス制度」ってなあに？

○インボイス制度とは？

税務署に届け出を行い登録された事業者だけが発行できる請求書や領収書、レシートなどのことを「インボイス」と呼びます。この「インボイス」を用いて新たにスタートする消費税に関する制度が「インボイス制度」です。

○今までと何が変わるの？

消費税の仕入税額控除の方式が変更になります。原則課税の方は受け取った請求書等がインボイスでないと仕入税額控除ができなくなります。（簡易課税を選択されている方は、従来からの変更はありません）仕入税額控除とは・・・

原則課税の計算方法例

【課税売上】
農産物販売代金
5,400万円（消費税400万円）

【課税仕入】
肥料費、農薬費
3.300万円（消費税300万円）

税 消費税400万円 － 税 消費税300万円 ＝ 税 100万円 → 納税 【税務署】

ポイント　課税売上に係る消費税から課税仕入れに係る消費税を引き算することを**「仕入税額控除」**と呼びます。

○誰に影響があるの？

ＪＡ出荷のみの方や縁故米など相手側が領収書等を必要としない場合、原則的にはインボイス制度による影響はありません。フローチャートで確認してみましょう。

影響度check スタート！

消費税の申告状況	販売状況	影響度	コメント
前々年度の課税売上が1,000万円以上：はい	ＪＡのみ：はい	無	課税事業者でＪＡ出荷のみの場合、原則的には農協特例※が適用されるため影響はないでしょう。
前々年度の課税売上が1,000万円以上：はい	ＪＡのみ：いいえ	中	課税事業者でレストラン等、小売業との取引がある場合、インボイス発行事業者の登録を行うことでスムーズな取引の継続に繋がるでしょう。
前々年度の課税売上が1,000万円以上：いいえ	ＪＡのみ：はい	無	免税事業者でＪＡ出荷のみの場合、原則的には農協特例※が適用されるため影響はないでしょう。
前々年度の課税売上が1,000万円以上：いいえ	ＪＡのみ：いいえ	大	免税事業者でレストラン等、小売業との取引がある場合、相手側の仕入税額控除の対象とならなくなるため取引が不利になる可能性があります。インボイス発行事業者の登録をするか十分な検討が必要でしょう。

※　農協特例：「無条件委託方式」かつ「共同計算方式」により委託販売される場合、JAが発行する一定の書類により買い手が「仕入税額控除」することを認められる。

インボイス制度には経過措置や特例などもございます。詳細は国税局HP等をご確認ください。

ご不明な点がございましたら、ＪＡみなみ魚沼営農指導課
（アグリセンター大和：TEL777-3786　しおざわ基幹センター：TEL782-1171）
までお問い合わせください。